

取組名	業間時の不審者対応
取組の特徴	<p>○児童に危害を加える目的で不審者が学校に侵入した場合の、危機的な状況に備え、訓練を通して児童の安全確保、避難誘導等、教職員が迅速かつ組織的に対応できるようにする。</p> <p>○児童自らが、校外での不審者遭遇や、校内での不審者侵入時において、起こりうる状況を予測し、被害を避けるための対応の仕方について理解を深めさせる。</p>
学校名	周防大島町立安下庄小学校

### 取組の概要

1 想定 平日の業間に不審者が校庭に侵入しうろついていた。退去を求めたが、応じず、感情が高ぶってきた。

#### 2 事前指導

○非常時における避難の方法や行動の仕方、心構えなどについて理解させる。

- ・緊急に自分で避難することがある。
- ・放送時には立ち止まって聞く。
- ・「緊急全校集会」は緊急の合図であることを知る。
- ・避難場所をしっかりと聞く。
- ・体育館までは「かけあし」で行く。（競争ではない。）
- ・「お・押さない は・走らない し・しゃべらない も・もどらない」を守る。
- ・体育館には靴を持って入り、静かに全校朝会の並び方で並ぶ。

※予め避難訓練があることを知らせ、2校時終了後、運動場へ行かせる。

※予め6年連絡児童を決め、指導しておく。（教頭・6年担任）

#### 3 事後指導

- ・訓練の様子やお話を思い出し、訓練で勉強になった事について話し合わせる。
- ・ふりかえりカードで避難したときの自分の行動を振り返る。

#### 4 訓練内容

時刻	児童の訓練内容	教師の訓練内容
9:55	<p>○2校時が終了後、すぐに運動場に出る。</p> <p>○自由遊びをしている。</p>	<p>○事前指導を前もってしておく。</p> <p>○健康状態が悪い児童以外は全員運動場へ行くようにする</p> <p>○不審者役は掲揚台付近を意味不明なことを言いながらうろつく。</p>
10:00	<p>○不審者を発見した6年児童が職員室へ連絡に行く。</p> <p>（3、4名）</p> <p>・連絡した児童は体育館前で待機しておく。</p> <p>※他の児童は異常事態の場所は近づか</p>	<p>○【初期対応】職員室から2名以上の職員が出向き、対応する。</p> <p>○ていねいに校外への退去を求める。また、できるだけ、体育館から遠ざけ、玄関側へ行くよう求める。</p> <p>○1人は緊急事態として職員室へ連絡に行く。他の2人は対応を続ける。</p>

<p>10:05</p>	<p>ない。</p> <p>○放送が始まったら、その場に立ち止まって、静かに放送を聞く。</p> <p>○放送終了後、体育館へ静かに駆け足で行く。</p> <p>○体育館前では、「おはしも」で行動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おーおさない</li> <li>・はー走らない</li> <li>・しーしゃべらない</li> <li>・もー戻らない</li> </ul> <p>○体育館には靴を持って入る。</p> <p>○無言で全校朝会の並び方で並ぶ。</p>	<p>○連絡を受け、校長・教頭が駆けつける。</p> <p>◎校長が非常事態を宣言し、教頭が事務へ放送を指示する。</p> <p>○事務職員が放送する。（2回繰り返す）</p> <p>「児童の皆さんに連絡します。只今から緊急全校集会を開きます。児童の皆さんは、体育館にすぐに集合して下さい。男性の先生方は玄関前に集まってください。女性の先生方は体育館に集まってください。」</p> <p>○事務職員から通報する。（今回はなし）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察</li> <li>・教育委員会</li> </ul> <p><b>【女性教員】</b></p> <p>○体育館前で混雑がないよう指示をする。</p> <p>○体育館前の階段には注意をさせる。</p> <p>○靴を体育館の床に置かないようにさせる。</p> <p>○誘導教員と児童で確認をし、全員の避難確認をする。</p> <p>○行方不明児童があれば2人組で探しに行く。</p> <p>○出入り口を施錠し、児童椅子やほうきを持って監視する。</p> <p>○警察官が駆けつけ、不審者を校外へ退去させる。（今回はなし）</p> <p>○校長が終結を宣言する。</p> <p>○教頭が到着次第、担任から教頭へ人員点呼の報告をする。</p> <p>○教頭は校長へ避難状況を報告する。</p>
<p>10:15</p>		
<p>5 講評 校長より</p> <p>6 講話・指導 スクールガードリーダーより</p>		

取組名	避難訓練（不審者対応）
取組の特徴	登校班ごとに、不審者への対応の仕方を練習する。
学校名	上関町立上関小学校

### 取組の概要

#### 1 ねらい

- (1) 突発的な不審者侵入事案に対して、職員の指示により児童を速やかに安全な場所に避難させ、児童・教職員の生命を守ることができるようにする。
- (2) 不審者侵入時における教職員の役割分担が組織的に機能するようにする。
- (3) 誘拐等不審者に対し、児童の対応力を高める。

#### 2 想定

玄関ホールに不審者侵入。何も手にしていないが事務主査に気づくと急にランチルームの方へ走って行った。児童の避難が必要である。

#### 3 実施内容

##### (1) 事前指導 朝の会

- ・各学級において真剣に取り組むことや職員の指示をよく聞くことを指導する。
- ・避難する途中は、おかしも（「おさない」「かけられない」「しゃべらない」「もどらない」）を守る。上履きのまま避難する。
- ・事前に不審者が侵入すること、「児童集会」の意味を知らせる。

##### (2) 避難訓練

○不審者侵入事件発生 <発見>川崎→教頭・校長（不審者に対応）→避難指示→避難

##### (3) 防犯教室

○不審者対応について

- ・不審者に遭遇→おかしいと思ったら、大声を出す。防犯ブザーを鳴らす。高学年は班員を守る。逃げる。知らせる。（登校班ごとに練習する。）
- ・「いかのおすし」指導



##### (4) 考察

避難訓練は、真剣な態度で実施することができたが、児童には、上関町民に見守られているという地域性や教員が不審者役になっているということで、緊迫感が感じられなかったようである。また、教職員には、より具体的な役割分担とさすまたの実技演習が必要だと思った。次回は、警察署の方から指導をしていただくように計画し、児童自身が、自分の身を守ることが大切だという意識を高めていく必要がある。

取組名	地域と連携した学校安全推進事業
取組の特徴	見守り隊との交流の機会をもつことにより、より一層地域との連携をはかり児童の安心・安全を確保する。
学校名	周南市立岐山小学校

### 取組の概要

本校校区の見守り隊は、登下校時にそれぞれの地域で児童の見守り活動を行っている。児童に見守り隊のメンバーであることが分かるように腕章をつけて活動を行っている。また、年間3回行われている避難訓練には毎回参加していただき、児童の避難の様子等の気づきを記録していただいている。なお、1回目の避難訓練時には、児童の前で各地域の見守り隊の方々の紹介を行っている。今回、児童と見守り隊の方々の交流を図るために、縦割り班活動時の行き帰りと校外での活動時に見守り活動をしていただくことにより、児童と見守り隊の方々がより一層の親近感をもち、結びつきを深くしたいと考えた。

- 1 日時 11月30日(金) 9:30～12:10
- 2 場所 岐山小学校～徳山動物園
- 3 参加者 全校児童(464名)、教職員(25名)、岐山見守り隊(16名)
- 4 概要

全校児童が6年生をリーダーとする36班に分かれた縦割り班で学校から徳山動物園に移動した。その後、動物園の中に提示されている各班が作ったクイズを探し、指定時間以内に解き安全に気をつけながら学校に戻ってきた。

なお、見守り隊の方々には、開始前に徳山動物園の駐車場に集合していただき、説明を行った。その後、通行路と動物園内のポイントに分かれていただいた。見守り隊の方々には、移動時の安全の見守り活動や動物園内の安全やマナーについて指導していただいた。そして、各班の良い行動や問題のある行動については、記録用紙に記録していただきその後の指導に生かした。

また、児童には、活動を通して見つけた、縦割り班の友達の良かった点や頑張った点を「すごいねカード」に書き、縦割り班ごとに掲示することで、安心や安全につながる行為や声かけを行った児童を認める場とした。

今回、地域を集団で移動することを通して、交通マナーや集団規律を再確認し「自分の身は自分で守る」という意識を養うことができた。また、日頃、保護者や地域の方々に見守られていることに気づくことができた。さらに、活動を見守っていただいた見守り隊の方々とは触れ合うことにより、より一層の親近感をもつことができた。

なお、課題としては、今回の活動中に班長を中心に、交通安全に気をつけたり、見守り隊の方々に気持ちのよいあいさつをしたりしたことが、地域に戻って児童それぞれができるかどうかということである。



徳山動物園の行き帰りの安全見守り



徳山動物園内の見守り

取組名	不審者侵入を想定した避難訓練
取組の特徴	スクールガードリーダー、少年安全サポーターと連携した避難訓練
学校名	防府市立勝間小学校

## 取組の概要

- 1 ねらい
- ・不審者侵入による緊急事態から、児童の大切な生命や身体の安全を守るために、必要な知識や態度を身につける。【教職員】
  - ・不審者対応の避難の仕方を身につけ、声かけ事案に対して自分の大切な生命や身体の安全を守るために、必要な知識や態度を身につける。【児童】

2 日時 平成24年7月5日(木) 2校時 9:30~10:15

### 3 事前・事後指導

#### <事前指導>

- ・不審者侵入の避難訓練を実施することを知らせ、いつも放送を静かに最後まで聞くことを指導しておく。
- ・校内で不審者を見かけたら、「逃げる」「近くの先生に知らせる」「ブザーを鳴らす」
- ・集団で行動するときの『お・か・し』（おさない」「かけられない」「しゃべらない）」
- ・声かけ事案発生時の『イカ・の・お・す・し』（いかない」「のらない」「おおごえでさげぶ」「すぐくにげる」「しらせる）」

#### <事後指導>

- ・避難訓練を振り返る。  
『お・か・し』『イカ・の・お・す・し』 放送の聞き方 集合の仕方
- ・校舎外の対応(声かけ事案)についても、再度、指導する。  
『イカ・の・お・す・し』

### 4 対応(流れ)の概要

- 9:30 第1発見者が職員室に声かけをし、不審者に対応する。  
同時に教頭は、110番通報を指示し、校内放送を行う。  
放送を聞いて、不審者への対応に支援者(男性教諭数名)がさすまたを持って集まる。
- 9:36 2回目の放送を聞いて、児童は、体育館へ移動する。
- 9:40 声かけ事案のロールプレイを行う。  
4年生児童、スクールガードリーダー、少年安全サポーター



10:05 校長先生(教頭先生)のお話  
10:15 1年生から、教室に静かに戻る。

- 5 今回の訓練では、スクールガードリーダーの方や少年安全サポーターの方が、不審者との距離の取り方や具体的回避方法などを低学年の児童にもわかりやすく教えてくださったことで、教室での事後指導にもいかすことができました。  
また、訓練実施後には、学校側に対するアドバイスもいただき、大変役に立った。今後は、地域や保護者もまじえた訓練に取り組みたい。

取組名	緊急放送による避難訓練
取組の特徴	指導者（指示者）がいない時の、全校緊急放送による児童の自主的な避難訓練の実施により、児童の主体的な避難行動、及び適切な集団待機行動のための技能と態度を育成する。
学校名	山陽小野田市立高千帆小学校

## 取組の概要

### 1 目的

- 緊急事態（地震及び火災・不審者侵入等）の発生に伴い、緊急放送により、児童を安全に避難誘導し、災害発生時の二次災害発生防止に努めるための、職員の技能と実践力を養う。
- 緊急放送及び避難行動後の職員の指示に従い、早く安全に避難・待機ができる実践的な態度を育てる。
- きまりを守って、安全な学校生活を送ろうとする意欲をもたせる。

### 2 今回の重点項目

- 避難・誘導の的確な指示
- 放送や教師の指示を無言で確実に聞く姿勢
- 児童の安全の確保と集団避難行動の育成

3 日時 平成24年9月4日（火） 10:25～10:45

訓練実施をあらかじめ児童に事前指導

### 4 想定及び訓練の流れ

- (1) 不審者と思われる者が来校、事務室前で折衝（想定）
- (2) 緊急放送後、全員が運動場北体育倉庫付近へ避難

### 【放送内容予定】

児童の皆さん及び先生方にお知らせします。そのまま立って聞いてください。

今、高千帆様が玄関にお見えです。今から緊急の全校朝会をおこないますので、運動場に上ばきのまま集合してください。集合場所はすべり台があるところです。

みなさん、人をおしたり、走ったりしないで、黙って行動し上手に集合しましょう。

児童の近くにおられる先生方、指示・誘導をお願いします。

- (3) 整列後避難状況の振り返り
- (4) 緊急放送傾聴の姿勢や的確な避難行動のとり方及び避難場所について指導
- (5) 校長先生の講評

### 5 訓練の実際及び考察

- (1) 不審者の侵入に伴う突然の避難訓練ということで、児童は多少戸惑っていたが、放送内容を、その場で無言で聞き、おおむね、指示どおりの避難ができた。しかし、中休みに実施したので、児童が登り棒やジャングルジム等に登ったまま放送を聞くという事態が起こったため、次回からは、落ちついて地面に降りて、放送を聞くよう指導する。
- (2) 春の訓練において、基本の避難・待機場所を児童に指定していたため、待機場所への移動もスムーズにできた。また、高学年が、低学年の世話（声かけや誘導等）をしている姿も見られ、昨年から取り組んでいる本訓練の成果も見受けられた。
- (3) 避難方法や避難場所が流動的であれば、児童が混乱すると考え、指導の視点を、緊急放送の聴き方（直立不動・無言・次行動の予測等）と待機場所への避難と待機行動（黙動・整列・学年でのまとまり、低学年への支援等）の二つに絞り、訓練を実施した。
- (4) 今後も本訓練を継続しておこない、児童に、避難・待機に向けた、安全で主体的な行動の大切さの認識と共により的確な実践力を培いたい。また、全体として、柔軟に対応できる避難行動のスキルアップも目指したい。

取組名	不審者出没を想定した見守り一斉下校
取組の特徴	校区安心・安全見守りネットワークと連携した訓練
学校名	宇部市立恩田小学校

## 取組の概要

### 1 日時

平成24年11月7日(水) 14:30～15:00

### 2 想定

恩田小学校区の近くに不審者が出没。

### 3 訓練の手順

- 校区安心・安全見守りネットワークが、校区の近くに不審者が出没したとのメールを関係団体に配信
- 見守りネットワークからの連絡を受けて、学校がメールでその情報を保護者に配信し、児童の下校の見守りを依頼する。
- 児童の安全を確保するために教員が付き添っての一斉下校を実施。
- 見守りネットワークの方々や保護者が児童の見守りを行う。

### 4 ねらい

- 緊急時における役割を教職員が理解し、地域と連携しながら児童の安全を確保できる実践力を身に付ける。
- 訓練を通して教職員の行動の仕方と危機管理意識を高める。

### 5 訓練の様子



教職員の付き添い



ネットワークと地域の方



定点での見守り

### 6 訓練を終えて

- 児童の一斉下校の時間が揃わなかった。一斉下校の方法の検討と共に職員の意識改善が必要である。
- 平日の昼間の時間帯であったので、保護者の見守りが少なかった。
- 今後も継続していくために、地域とどのような防犯体制が構築できるのか考えていく必要がある。

取組名	児童(保健委員会)による安全点検
取組の特徴	教職員による校内の安全点検は、毎月行っているが、児童による安全点検を取り入れたところ意外な発見が多くあり、学校安全に大きく役立っている。
学校名	山陽小野田市立有帆小学校

## 取組の概要

### 1 児童による安全点検の実施

校内の安全点検については、毎月初めに職員によって行ってきた。しかし、同じ視線での点検に不安な点があることは否めない。これまでに、点検場所を交代するなどの工夫はしてきているが、同じような内容しかあがってこない状況である。そこで、本年度より、保健委員会の活動の一部として、「児童による安全点検」を実施した。

#### ① 危険箇所を探す

児童にデジタルカメラを持たせ、校内の危ないと思われる箇所を探し、写真を取ってきてもらった。児童たちは、自分たちが学校みんなの役に立てるという喜びをもって、意欲的に取り組んでくれた。見つけてきた危険箇所は、職員の安全点検ではあがってこなかったものが多く含まれており、驚かされた。子どもの視線で探すと、大人では気づき得ない危険箇所が多く見つかった。



雨の日は滑りやすい渡り廊下



よく出会いがしらにぶつかる所



焼却炉の後ろに隠れていたフェンスのやぶれ

#### ② 危険箇所を全校に知らせる

とってきた写真を印刷し、全校のみんなに知らせるための資料を作り、廊下に掲示して、全校児童及び職員への周知を図った。また、遊具などで危険な場所には、使用禁止等の張り紙をした。



廊下に掲示した資料の一部

#### ③ 危険箇所の改善

児童からあがってきた危険箇所については、職員の安全点検のものとおわせて、危険回避への改善を図っている。



遊具に危険表示の張り紙をする

報告掲示



### 2 成果と課題

今年度、初めて取り組んだものであるが、目線が変わったことにより新たな発見があり、大変効果的であったように思う。怪我の数などの具体的な成果についてははっきりとしていないが、児童自身の手で行った取組ということから、周囲の児童にもその波及効果がみられ、一人ひとりの児童の危険に対する意識向上につながったと思われる。今後、本校の特色ある安全教育への取組として定着させていきたい。



取組名	「一日子ども安全大使」防犯教室
取組の特徴	県警から委嘱を受けた「一日子ども安全大使」を迎え、実施した防犯教室
学校名	下関市立豊浦小学校

## 取組の概要

### 1 概要

山口県警生活安全企画課、少年課が、山口県防犯連合会と下関市教育委員会の協力を得て、初代タイガーマスク（佐山聡氏・本校出身プロレスラー）に「一日子ども安全大使」を委嘱し、4月18日（水）本校において、犯罪から自分の身を守るための意識の醸成・向上を図る目的で、「防犯の大切さ～自分の身は自分で守ろう！～」と題した講演会を実施した。

### 2 内容

- (1) 「一日子ども安全大使」の紹介（DVD視聴）
- (2) 講演及び実技指導（護身術）
- (3) 在校生からお礼・花束贈呈
  - ・タイガーマスクの応援エール（6年生代表児童）

### 3 参加者

佐山聡氏他スタッフ、全校児童、全教職員、山口県警察関係者8名、山口県教育委員会関係者1名、下関市教育委員会関係者4名、保護者、地域の学校関係者で希望する者。（保護者、地域の学校関係者には、県警作成のチラシを配付）

### 4 指導の実際

佐山氏は、本校の卒業生であり、初めて母校に帰る機会となった。子ども達は、佐山氏を知らない世代であるので、まず、現役で活躍されていたころのプロレスの様子をDVDで紹介した。悪役のレスラーと勇敢に戦っている姿に歓声が上がった。次に、「自分の身は、自分で守る」ことをテーマに講演が行われた。南米に修行したころに暴漢に襲われた話なども交え、不審者役に扮した警察署員を相手にして、護身方法を実演された。不審者に連れ去られそうになったら、自分（佐山氏）のように戦うのではなく、「勇気をもって逃げること」や「地面にお尻をつけて座った状態で抵抗すること」等を指導された。

最後に、6年生代表児童がお礼の挨拶をした後、応援団のフレーフレーコールでエールを送った。

### 5 取組の成果

子ども達は、佐山氏がアニメ「タイガーマスク」に憧れプロレスラーになる夢を叶えるために努力を積み重ねたこと、今もプロレスを発展させ、武道を極めながら心と体の強さを鍛えていることを知り、大変感動していた。

夢を実現した佐山氏の講演を通して佐山氏のような先輩がいることを誇りに思い、「自分がしたいこと」を明確にしていくキャリア教育にも繋がった。

社会的弱者である子ども達が、犯罪の前兆事案（声かけ事案）から身を守る術を習い、防犯意識の高揚を図ることができた。レスリングを通じて体力だけでなく、ルールを守ることの重要性等、少年の健全育成と犯罪から身を守るための自主的な防犯意識の向上の係わる内容であった。



取組名	不審者対応避難訓練
取組の特徴	「下校中に不審者に声をかけられた児童が萩市民体育館に助けを求めて逃げ込んだ。市民体育館から連絡を受けた学校は、まだ下校していない児童をすぐに体育館に避難させるとともに関係機関へ連絡をする。」という設定で行った。
学校名	萩市立椿西小学校

## 取組の概要

### 1 日時

平成24年9月27日（木） 14:30～15:10

### 2 訓練要領

- (1) 代表児童が、市民体育館前まで下校する。
- (2) 前方から近づいてきた不審者が児童に声をかける。  
(不審者役：少年安全サポーター)
- (3) 児童は、市民体育館へ走って逃げ込み、状況を説明する。
- (4) 市民体育館職員は、学校に連絡する。
- (5) 連絡を受けた職員は、校長に報告する。
- (6-1) 状況及び児童の安全を確認するため、すぐに市民体育館へ行く。（担当教員）
- (6-2) 緊急放送をかける。（教頭）

この状況を職員がビデオで撮影し、後の全体指導で活用する。

「防犯訓練です。市民体育館付近で不審な人が見かけられ、今、逃げているという連絡がありました。児童の皆さんは、すぐに体育館に避難してください。」

- (7) 児童は、体育館に避難する。  
〔1～4年〕 帰りの会の時間のため、通常、体育館へ移動する経路を通って行く。（担任引率）  
〔5・6年生〕 委員会活動の時間のため、今自分がいる場所から、各自体育館へ移動する。
- (8) 南門～正門～北門付近を警戒する。（男性教員）
- (9) 避難していない児童がいないか校舎内を見回る。  
(1階：養護教諭、2階：栄養教諭)
- (10) 避難完了後、全体指導
  - ①声かけから避難の様子のビデオ視聴
  - ②講評 少年安全サポーター 石井章義 様
  - ③校長先生の話



### 3 訓練を振り返って

- 下校時の不審者遭遇を想定し、近くにある関係機関と連携して訓練を実施できたことはよかった。子どもたちも、もし不審者に遭遇したときなど、近くにある家や事業所に助けを求めていけばいいことを子ども自身が確認することができた。
- 代表児童への声かけから避難までの様子のビデオを撮影し、後の全体指導で活用したことで、子どもたちが不審者との遭遇を自分のこととしてとらえることができた。少年安全サポーターの方もビデオを見ながら、間合いの取り方や伝えたらいい不審者の特徴など説明してくださったり、大きな声を出しながら逃げることの大切さについてアドバイスをしてくださったりして、より具体的な理解ができたと考える。
- 今後も、学校の周りにある市民体育館や児童クラブ、保育園などの関係機関と連携した取組を、様々な状況を想定し実施していきたい。

取組名	通学路の安全確保に関する取組
具体的取組	○児童・保護者・教師の三者による通学路点検・・・ハザードマップ作り ○安全ボランティア・子ども110番の家との連携・・・交流の工夫 ○関係機関との連携・・・より安全な通学路
学校名	岩国市立柱野小学校

## 取組の概要

### I ハザードマップ作り

#### 1 三者の目で

ハザードマップ作りの際に、子ども目線で危険箇所を確認するようにした。PTAとの話し合いで期日を決定し、できるだけ多くの保護者の協力を得ることにした。各班長にカメラを持たせ、写真を撮るように指示した後に、保護者と地域担当の教師が付き添いながら集団下校をする。



子どもが撮った写真①

#### 2 危機意識をもたせる

後日、たくさんの写真の中で危険度の高いところを班長・副班長と話し合い、具体的な様子を地図の中に記載する作業を行った。このことにより、子ども自身が危機感をもち、登下校時に気を付けるようになるとともに、保護者が危険なところを子どもと共有することで、出かける前の声のかけ方も変わってきた。

#### 3 地域の協力を得る

出来上がったハザードマップは、学校便り同様、地域の全戸に配付し、より多くの目で子どもの安全を見守っていただくことにした。(全地図は、柱野小 HP 参照)



①の地域のハザードマップ

### II 「柱野小の子どもたちを知ってください」

#### 1 「知る」ことから始まる連携

学校便りを全戸配付する理由の一つに、学校のことを知ってもらうことがある。狭い地域であっても、子どものいない家庭では、学校のことを分かりにくい。「子どもの写真が載っているので、名前は分かりませんが、柱野小の子どもが分かるようになりました。」という地域の方からの電話をいただいた。それと同時に、学校安全ボランティアの登録数も増えている。また、「子ども110番の家」の登録も、継続して受けていただけている。子どもたちを大事に思ってくださいという証といえる。

#### 2 交流の工夫

地域の多くの方々が見守ってくださっているということを知らせるとともに、感謝の気持ちを伝える機会をもつことにした。子どもがボランティアの方を知り、ボランティアの方に子どもをより身近に感じていただくためである。

##### (1) お礼の手紙

子ども110番の家に、児童と教師で出向きお礼の手紙を渡すとともに、子ども自身の言葉で感謝の意を伝えている。

##### (2) 打合せ会

ボランティアや110番の家の方々に、登下校の様子や危険箇所などを直接伺う会を開催した。学校だけでは分からないことを知ることのできるよい機会である。学校行事の日で開催することで、より多くの方に来校いただいている。

##### (3) 交流会

「1年生を迎える会」「6年生を送る会」「運動会」に案内を出し、交流の場をもっている。ゲームを通してふれあいを深めることができる会である。本年度「6年生を送る会」では、日頃の感謝の気持ちを一人ひとりの「お礼の言葉入り葉」に託して、プレゼントすることになっている。



ゲームで交流



お礼の言葉

### III より安全な通学路をめざして

危険箇所について申し出をし、教育委員会・警察・市道路課との話し合いの場が設定された。今すぐできないことであっても、より安全な通学路に向け検討することができた。

取組名	交通安全集会
取組の特徴	交通指導員の方とのふれあいを通して、感謝の気持ちをもたせると共に、交通安全への意識を高める。また、交通指導員や見守り隊などの地域の方と児童が親しくなることによって、防犯への効果も期待する。
学校名	下松市立東陽小学校

## 取組の概要

- 1 目的 交通安全について1年間の自分の様子をふり返るとともに、日頃お世話になっている方々に感謝の気持ちをもつことによって、交通安全についての意識を高める。
- 2 日時 平成24年10月12日（金）5校時
- 3 場所 体育館
- 4 内容
- (1) 交通指導員の方の入場
  - (2) はじめの言葉
  - (3) 交通安全に関するビデオ視聴
  - (4) 生活安全委員会の発表（交通安全に関するクイズ）
  - (5) お礼のプレゼント渡し（全校児童の手紙）
  - (6) 交通指導員の方からのお話
  - (7) 校長先生のお話
  - (8) 終わりの言葉
  - (9) 交通指導員の方の退場
- 5 その他
- ・お礼の手紙は、1年生は見守り隊の方へ、2年生から6年生は自分の地区の交通指導員の方を書く。それを綴じたものを、各学年の代表が渡す。
  - ・学校での交通安全の取組を理解してもらうために、PTA育成部の方を集会に招待する。
- 6 実践の様子

交通指導員の方の入場



交通安全ビデオ視聴



生活安全委員会のクイズ



お礼のプレゼント渡し



感謝の気持ちを込めて手紙を書きました。

身近な交通ルールなどがクイズとして出題され、しっかり考えることができました。

指導員の方の退場



交通指導員の代表の方から、登下校で気をつけることのお話がありました。

取組名	①実際の通学路の写真を用いたKYT ②委員会児童による安全な廊下歩行の呼びかけ ③自転車クラブの活動
取組の特徴	①通学路上の危険箇所をKYTの資料とすることで、児童の実生活に即した学習となるようにしている。 ②高学年児童が中心となって活動することで、児童の安全意識の高揚を図っている。 ③4～6年児童の中から希望者を募り、自転車クラブの活動を行っている。
学校名	下松市立下松小学校

### 取組の概要

#### ①実際の通学路の写真を用いたKYT

学期末に行われる地区児童会で、KYTに継続して取り組んでいる。その際、資料として用いる画像は、実際の通学路の写真を使用している。教職員による通学路の確認や保護者から危険箇所として挙げていただいた箇所などの写真を撮り、その写真をワークシート化し活用している。児童が通行している箇所の写真を使用することで、児童がトレーニングに関心をもって取り組んだり、その箇所を通行する際に気をつけたりすることができている。

(今年度使用した写真)

(横断歩道を渡る際に考えられる危険)

- ・ 右の塀の陰から車が出てくる。
- ・ 自分の背後から右折車が進入してくる。
- ・ 前方から左折車が進入してくる。
- ・ 自分の背後から自転車が近づいてくる。  
など



#### ②委員会児童による安全な廊下歩行の呼びかけ

生活安全委員会の取組として、休み時間に児童の通行量の多い箇所や、廊下がまっすぐに延びていて児童が走ってしまいがちな箇所などに委員会児童が立ち、安全に気をつけて通行するように呼びかけている。高学年児童が直接呼びかけることで、低学年児童への注意喚起になるとともに、高学年児童自身が安全に関する意識を高めることができ、効果的な活動となっている。

#### ③自転車クラブの活動

4～6年児童の中から希望者を募り、自転車クラブの活動を行っている。年度初めから、朝と夕方に練習を行い、県大会に出場している。県大会後のシーズンオフにも週2回の早朝練習を続けている。自転車の技術を向上させていくことで、交通事故防止に繋がっている。また、交通ルールを学ぶことで、安全意識の高揚にも繋がっている。

取組名	危険予測学習（KYT）の実施
取組の特徴	交通安全教育の一環として、自転車危険予測学習や自転車乗車教室等を全児童を対象に実施した。
学校名	美祢市立田代小学校

### 取組の概要

#### 1 本時の目的

- (1) 電子黒板を利用し、教材の絵に潜んでいる危険を予想し指摘し合うことで、自転車乗車中の危険に気づき、事故に遭わないようにするにはどのように行動すればよいか理解させる。
- (2) 運動場に模擬コースを作成し安全な運転ができるよう自転車乗車技能を高める。

2 期日 平成24年7月18日（水）10：35～12：00 3・4校時

3 指導者 担任 長生充弘教諭

4 参加児童 4年1名、6年4名 計5名

#### 5 具体的な取組内容

- (1) 危険予測学習について 教材及び資料 「山口県教育委員会 平成21年2月発行 自転車KYT教材集」

##### ○学習の実際

- ・ 電子黒板を操作しながら、絵や写真を提示し、予測される危険を考えさせた。また、危険を回避するためには、どのような運転をすればよいのか発表させた。
- ・ 事故が多発する交差点や細い道路から広い道路への出入り口等は、特に時間をかけて指導した。その際は、校区にある道路状況を踏まえながら丁寧に指導するよう配慮した。

#### (2) 自転車乗車教室

##### ○学習の実際

- ・ 模擬コース上に、車を駐車させ、横を通る際の後方・前方確認やドアが急に開く場合も想定しながら練習させた。



どんな危険が予想されますか？



車が突然動くかもしれません。

#### 6 考察

危険予測学習は、継続的に毎年実施しているため、こちらが予想していた危険をほとんど見つけることができた。また、「どのようにすればよいのか。」と聞かないでも、発表の中で、「スピードを出さないようにしたらいいと思います。」などの積極的な発言が聞かれた。自転車乗車教室では、高学年になり、ふらつきが少なくなり安定した運転であった。特に、駐車中の車の横を通る時の安全確認方法は、事故防止に向けて効果的であったと思う。

これらの学習を通して、子どもたちは、自転車乗車についての安全意識をさらに高めることができたと思う。

取組名	地震・津波避難訓練
取組の特徴	防災意識を高めるために、地震・津波警報発令時の基本行動を理解し、状況に応じて安全に避難する訓練を行った。
学校名	周防大島町立三蒲小学校

### 取組の概要

- 1 日時 平成24年 5月28日(月) 10:10~10:40
- 2 想定 授業中、震度5以上身体等ではっきり分かる地震が発生した時の教室内での対応と地震による津波警報が発令された時の緊急避難。
- 3 当日の流れ
  - 10:10 地震発生(非常ベル)  
地震発生時の緊急放送(机の下にもぐる)
  - 10:12 津波警報発令による緊急避難の放送  
外に避難後、お寺に避難させる。
  - 10:30 避難完了 人員確認・報告  
校長講評・学校へ移動
  - 10:40 学校着 終了
- 4 事前・事後指導
  - ・ 避難の4原則「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」を押さえておく。
  - ・ 放送を正確に聞き取ること
  - ・ 避難の仕方、経路の確認
  - ・ 校舎内・校舎外における地震発生時の対応の仕方
  - ・ 訓練後は、学級でふり返りをする。
- 5 反省・考察
  - ・ 津波発生時の避難場所として、高台にある地域のお寺の協力を得て訓練を行うことができ大変ありがたい。
  - ・ 児童は、担任の誘導によって速やかに避難することができた。
  - ・ 少人数ではあるが、全校が一斉に避難するので、怪我防止のため小走りより歩いて避難する方がよい。(緊急性にもよるが)
  - ・ 一次避難・二次避難場所それぞれにおいて、人員確認・報告を確実に言い、教職員の連携が重要であることを再確認できた。
  - ・ 日頃から集団下校の場を使って、「無言で速やかに集合する」態度を育てていくとよい。



お寺へ移動



お寺へ避難

取組名	地震津波対応避難訓練
取組の特徴	学校防災マニュアルに沿って、地震津波対応避難訓練を実施するとともに、防災教育指導資料をもとに事前及び事後指導（防災教育）を実施した。
学校名	平生町立平生小学校

### 取組の概要

#### 1 ねらい

- ①地震及び津波発生時における安全な基本行動を身に付ける。
- ②地震や津波に備え、安全意識の高揚を図るとともに、生命尊重の精神を養う。
- ③非常時における職員の避難誘導體制の確認を行う。

#### 2 地震の想定

- 授業中に震度6弱の地震発生。児童を各教室に避難させる。【一次避難】
- 大津波警報が発表されたことを受け、児童を大星山方面に避難させる。【二次避難】

#### 3 実施日時 平成24年10月5日（金）9：25～10：10

#### 4 指導内容等

- ①東日本大震災を例に、津波の恐ろしさを伝える。
- ②地震や津波に備える日頃の心構えを話し合う。
- ③震災時における安全な基本行動を理解させる。

#### ※事前・事後指導に活用した防災教育指導資料

- ・津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」（気象庁制作）
- ・津波防災ハンドブック（気象庁制作）
- ・防災教育テキスト  
「自然災害から自分の命を守るために」（山口県教育庁学校安全・体育課）
- ・危険予測学習（KYT）資料集（山口県教育庁学校安全・体育課）

#### 5 実施後の反省・改善点

- ・昨年度は避難経路の確認を主目的にゆっくり歩いて避難を行ったが、今年度は素速く行動することをめあてに実施した。事前指導の防災教育をセットにしたことで、児童の意識が高まり、避難にかかる時間も大幅に短縮することができた。
- ・平生幹部交番の協力を得て、より安全に速やかに避難することができた。
- ・来年度は、平生幼稚園との共同実施も視野に入れて、より実践的な避難訓練を計画していきたい。



学級ごとに2列に並んで速やかに移動



平生交番の協力を得て安全に避難



自分の命は自分で守る  
少しでも速く高台へ避難



取組名	地震・水害対応避難訓練
取組の特徴	これまでは授業中に地震が発生し、教師の指示に従い避難していたが、防災対応能力の向上を目指し、今回は児童に時間を知らせず、業間時間に発生するという想定で行った。そして、一次避難終了後に津波が発生したということで、二次避難を開始するところまでを行い、保護者や学校運営協議会、自主防災協議会の方達にも参観いただいた。
学校名	周南市立富田東小学校

## 取組の概要

1 日時 平成24年11月27日(火) 10:20~10:45

2 ねらい

- (1) 地震発生時の身の守り方と避難の仕方を理解させる。
- (2) 水害発生時の避難場所と安全な避難の仕方を理解させる。
- (3) 指示に従い、安全に気をつけて冷静・迅速な行動を取ることができるようにする。
- (4) 災害時において職員が適切に避難行動ができるようにする。



### <てんでに避難>

3 想定と訓練の流れ

業間時間に地震が発生。児童は自分のいる場所で頭部を保護し身をかがめ、揺れが収まるのを待つ。出入り口の側にいる者はすぐに戸外に出て、建物から少し離れ、同様の行動を取る。その後、放送の指示で運動場に集合し、人員確認をする。その間に、津波警報が出たので、永源山へ避難を開始する。

- (1) 10:20~ 地震発生(放送された地震の音を聞く)
  - ・児童は揺れが収まるまで、身の安全を守るために、机の下にもぐるなど頭部を保護し、身をかがめて待つ。
- (2) 10:21~ 地震発生の放送を聞く。
  - ・教職員は避難口確保のため出入り口を開ける。避難経路の安全確認をする。
- (3) 10:22~ 一次避難開始
  - ・放送の指示が終わるのを待って無言で避難する。
  - ・教師は自分の近くにいる児童の安全を見守り、誘導しながら、運動場へ避難する。負傷して動けない児童がいる場合は一緒に連れて出る。無理な場合は、すぐに救助に来ることを伝え、応援を呼びに行く。
  - ・担任は学年・組が書かれたプラカードを掲げ、児童が迷わずに集合できるようにする。
- (4) 10:28~ 人員確認
  - ・避難場所で児童を整列させ、人数及びけがの有無を確認して報告する。
- (5) 10:30~ 二次避難開始
  - ・津波警報が発表されたので、永源山公園へ避難を開始する。
  - ・担任はプラカードを掲げ、クラスの児童が担任を見失わないようにする。
- (6) 10:45~ 校長からの講評
  - ・避難経路の途中まで避難し、学校へ戻る。一次避難の時の位置に整列し、講評を聞く。



### <永源山へ逃げろ>

4 実施後の反省・考察

業間時間に児童が自由に過ごしている際の避難であったが、予想以上にスムーズに落ち着いて避難することができた。しかし、自分がいた場所から一度教室まで帰ったり、靴を履き替えるために遠回りなのに昇降口から出たりする児童もあり、自分で考え判断し、適切な行動ができるよう今後も繰り返し訓練をしていく必要がある。

また、二次避難の際は二手に分かれないと最後尾が出発するまでにかかなり時間がかかる等、実際にやってみることで見えてくることがあるので、今後もあらゆる状況を想定した訓練を行うとよいと感じた。

今回、初めて保護者や自主防災協議会等の外部の方にも参観していただいたが、いろいろな視点からお気づきをいただき大変参考になった。



取組名	実践的な避難訓練														
取組の特徴	地震により学校放送が使用できなくなったという設定での避難訓練														
学校名	山口市立嘉川小学校														
取組の概要															
1 日時	平成24年11月14日(水) 9:55~10:20														
2 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を探し、そこに身を寄せる等、「自分の命は自分で守る」という意識を高める。</li> <li>・地震発生時、放送が使えなくなったという想定で、担任の指示に従い、落ち着いて安全に避難できるように訓練する。</li> <li>・津波警報が発令したという想定で、2次避難場所(校舎3階)へ、落ち着いて安全に避難できるように訓練する。</li> <li>・緊急地震速報について理解させ、在宅時に効果的な対応ができるよう指導する。</li> </ul>														
3 想定	授業中、強い地震が発生。本震が始まって10秒後に余震が襲ってくる。校舎内にいると危険だと思われるが、本震により電気が使えなくなり、放送は入らない。そこで、担任の判断と指示により、子どもたち全員を直ちに運動場へ避難させることが必要となった。														
4 避難までの手順	<ol style="list-style-type: none"> <li>① (効果音) 担任『地震です。皆さんはすぐ机の下に入り、机の脚をななめに2本しっかりと持ちなさい。』繰り返す</li> <li>② (効果音が終わって) 担任『地震はおさまりましたが、皆さんはそのまま机の下で余震に備えます。』</li> <li>③ (20秒後 効果音) 担任『余震が来ました。机の脚を2本、しっかりと握りましょう。』繰り返す</li> <li>④ (効果音が終わって) 担任『地震はおさまりましたが、皆さんはそのまま机の下で余震に備えます。』</li> <li>⑤ (効果音が終わって1分後) 担任『余震もおさまったようです。室内にいては危険なので運動場に出ます。皆さんは机の下から出て、落ち着いて廊下に並びなさい。』</li> </ol>														
5 避難順序	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 廊下整列(人数確認)→誘導・避難(上履きのまま) <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内では、「押さない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」</li> </ul> </li> <li>② 避難経路 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震時避難経路(いつもどおり)</li> <li>・運動場中央に校舎を背にして並び、出た学年から順次、中央から並び</li> </ul> </li> <li>③ 報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任→教頭→校長 ※時間計測・・・教頭</li> </ul> </li> </ol>														
6 日程・役割	<table border="0"> <tr> <td>9:55</td> <td>本震の放送・余震の放送(事務主事)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>避難誘導・報告(各担任)</td> </tr> <tr> <td>10:00</td> <td>教頭先生の話(教頭)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>津波警報発令のメール受信(教頭)</td> </tr> <tr> <td>10:10</td> <td>2次避難場所(校舎3階)へ移動(上履きのまま)</td> </tr> <tr> <td>10:15</td> <td>緊急地震速報についての話(プロジェクターで画面を出して)</td> </tr> <tr> <td>10:20</td> <td>校舎3階で解散(各担任の指示で)</td> </tr> </table>	9:55	本震の放送・余震の放送(事務主事)		避難誘導・報告(各担任)	10:00	教頭先生の話(教頭)		津波警報発令のメール受信(教頭)	10:10	2次避難場所(校舎3階)へ移動(上履きのまま)	10:15	緊急地震速報についての話(プロジェクターで画面を出して)	10:20	校舎3階で解散(各担任の指示で)
9:55	本震の放送・余震の放送(事務主事)														
	避難誘導・報告(各担任)														
10:00	教頭先生の話(教頭)														
	津波警報発令のメール受信(教頭)														
10:10	2次避難場所(校舎3階)へ移動(上履きのまま)														
10:15	緊急地震速報についての話(プロジェクターで画面を出して)														
10:20	校舎3階で解散(各担任の指示で)														
7 事前指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の命は自分で守る」ために、地震発生の際は、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を探し、そこに身を寄せることの重要性について指導しておく。</li> <li>・嘉川小は、最大と予想される津波が来ても大丈夫だが、念のため2次避難場所を校舎3階としており、校舎が倒壊した際は、嘉川八幡まで逃げることを教えておく。</li> <li>・机の下に入ったとき、対角線上の2本の足を握っておくと安全だということを教えておく。</li> <li>・避難する際の「お・は・し・も」について指導しておく。</li> </ul>														
8 事後指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会などで振り返る。</li> </ul>														

取組名	地震津波対応避難訓練
取組の特徴	教員がいない中でも自分で考え、安全に行動できるように訓練をした。
学校名	下松市立笠戸小学校

### 取組の概要

#### 1 ねらい

- (1) 地震に対応する基本行動が理解できるようにする。
- (2) 自分でしっかりと判断し、きまりを守り、安全に避難できるようにする。

#### 2 指導事項

##### (1) 事前指導

前日に「防災の日（9月1日）」自然災害への対応などプリント参照し学習する。

学習活動・内容	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業時間でない時に地震が起きた時にどう避難したらよいかを考え、みんなで話し合う。</li> <li>・遊んでいた場合の避難経路、避難場所の確認（運動場、廊下、トイレ、特別教室等）</li> <li>・掃除時間の場合の避難経路の確認</li> <li>○ 高学年は、近くにいる下学年のことを考えどう行動したらよいか考え、話し合う。下学年は、どうしたらよいか考え話し合う。</li> <li>○ 一人だったら、どうするかを考え話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業時間でない時に自己判断する大切さを確認し避難経路、避難場所を話し合わせ確認する。</li> <li>○ 基本事項の確認をする。</li> <li>・揺れがおさまるまでは、姿勢を低くして待ち、身の安全を確保するように指導する。教室内は、机の下に入る。</li> <li>・行動の仕方「押さない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」の徹底</li> <li>○ 仲間と助け合うことの大切さを確認する。</li> <li>・自己判断、自立、協力</li> </ul>

##### (2) 避難訓練

本部	教師	児童
<p>1 緊急地震速報により、市教委から地震ともなう津波が発生したと連絡を受ける。</p>		
<p>想定 訓練地震発生。訓練地震発生。今から30秒後に、震度5弱程度の地震が発生するとの連絡がありました。高学年は、近くに下学年がいないか確認してください。自分達で避難の方法を考えてください。そのまま揺れがおさまるのを待ってください。</p>		
<p>2 避難を指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火の始末（電源）と出口の確保をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺れがおさまるまで身の安全を保つ。部屋の中なら机の足等をしっかりと持つ。</li> </ul>
<p>避難訓練。避難訓練。地震はおさまりました。皆さんは、自分の判断で直ちに運動場に避難してください。</p>		

※時間計時開始



- ・避難の誘導をする。
- ・校舎内の確認

1階、トイレ  
2階



- ・高学年の児童は、近くの下学年の安全を考え一緒に避難する。
- ・調子の悪い者には手をかけて安全を図る。
- ・帽子をかぶり上履きのまま、何も持たずに避難する。
- ・外にいる児童は、そのまま運動場中央部に避難する。
- ・学年別に静かに整列して教師の指示を待つ。

- 3 避難状況の報告を受ける。
- 4 保護者に児童全員無事に避難完了したことをメール配信する。
- 5 避難行動終了後
  - ・ 講評（校長）
  - ・ 解散

※校長へ人員の報告をする。

- ・体調の悪い者には手をかけて安全を図る。

(3) 事後指導

学習活動・内容	教師の支援
○ 避難訓練の反省を話し合う。 ・ 避難訓練の自己評価	○ 事前指導の基本行動様式を確認させ、各自の行動は適切であったか話し合わせる。

3 評価

児童

- (1) 地震避難訓練の目的を理解し、真剣な態度で適切な行動がとれたか。
- (2) 基本的な行動の仕方を理解できたか。

教師

- (1) 児童が避難集合場所に安全に避難したのを確認できたか。
- (2) 避難集合場所での整列、人員確認、報告が正確にできたか。

4 実施後の反省・改善点

- ・児童は自分たちで考え、安全な行動をとることができた。
- ・火災避難訓練などこれから行う災害訓練でも、引き続き行っていき、普段から防災意識を高めるようにしたい。
- ・今回は消防の方やスクールガードリーダーなどを呼ぶことはしなかったが、今後行う火災訓練などでは、消防の方などを呼び、防災に関する話なども合わせて行っていく。

取組名	火災発生に対応した危険予測学習と実践的な避難訓練の実施
取組の特徴	火災発生に対応した危険予測学習を行い、危険予知能力を高めるとともに、火災発生時の実践的な想定による避難訓練を実施することにより、危険回避に必要な能力を育む。
学校名	山口市立八坂小学校

## 取組の概要

### 1 火災発生に対応した危険予測学習（4ラウンド法）

〔校舎内での火災発生場面〕 11月28日実施

- ① 現状把握
  - ・学校や家庭での火災について知る。
- ② 本質追求
  - ・火災発生時のけむりの恐ろしさについて考える。
  - ・不安や恐怖からパニックを起こした時の行動について考える。
- ③ 対策樹立
  - 発生時
    - ・あわてて行動しない。
    - ・教師の指示や放送を待ち、聞いてから行動する。
    - ・煙が見えれば、すぐに避難する。
  - 避難方法
    - ・教師の指示に従い行動する。
    - ・「おはしも」を守り避難する。
    - ・ハンカチや袖口等で口と鼻をおおい、低い姿勢で避難する。
- ④ 目標設定
  - ・命を守る方法を正しく知る。
  - ・命を守る判断ができる。
  - ・命を守るために安全に行動できる。



- ・初めに今年度実施した避難訓練を想起させ、向上した点や課題を振り返らせた。
- ・児童自身が危険に対する気づきや具体的な対策を考えることで、自分の命を守る安全な行動についての理解を深めさせた。
- ・縦割り班を活用してグループを作り、上学年が下学年をリードしながら話し合いを行わせることで、学び合いの中で一人ひとりの危機意識や安全意識を高めさせた。

### 2 実践的な避難訓練の実施

〔中間休み終了直後の発生を想定〕 11月30日実施

- ① 児童に開始時刻は知らせずに実施する。
- ② 火災発生時に、児童の近くに教職員はいない状況を設定する。
- ③ 火災発生場所を消防署職員が設定し、教職員は事前の認知なしに火元確認及び初期消火を行う。
- ④ 教職員は、避難誘導班、消火班、救護班の役割分担に従い、状況を判断し行動する。
- ⑤ 校内放送が使用できない設定とし、呼びかけによる避難誘導のみで対応する。
- ⑥ 地域の子ども見回り隊員も避難誘導に加わり、運動場への避難を行う。



- ・消防署の方々の監視のもと、児童は緊張感をもち、自分の命を自分で守る行動をしっかりとることができていた。
- ・火災発生時間や場所の設定、誘導方法等、これまでの訓練で実施しなかった想定で訓練を行うことで、今後の想定外を防ぐための成果と課題を得ることができた。

### 3 取組を終えて

- ・危険予測学習と連動させることで、児童の訓練に対する意識が向上するとともに、危険予知能力の向上が図られた。
- ・想定を工夫することで実践的な避難訓練となり、危険回避能力の育成を図ることができた。
- ・八坂子ども見回り隊の方々に参加していただくことで、訓練に対する様々な意見や感想をいただくことができた。また、本訓練が家庭や地域へと広がることで、地域の防災活動や防災意識の高揚へとつなげていけたらと考える。

取組名	地震対応避難訓練
取組の特徴	児童の休み時間に緊急地震避難速報を流し、児童の主体的な避難訓練を行った。避難訓練後、体育館で全校一斉の防災学習（地震・津波）を行った。
学校名	山陽小野田市立本山小学校

### 取組の概要

- 事前学習（各学級で実施）  
避難訓練実施日前に、「落ちてこない。倒れてこない。移動してこない。」をキーワードに地震から身を守ることとその方法を学んでおく。
- 地震対応避難訓練（11月15日休憩時間10:30～）
  - 緊急地震速報を流す  
「チャラン・チャラン・緊急地震速報・強い揺れに注意してください。」地震音録音テープを流す。
  - 身を守る  
「落ちてこない。倒れてこない。移動してこない。」のキーワードを思い出し、児童・教師は机の下等身の安全確保に努める。
    - ・教室内では机の下等で身を守る。
    - ・運動場では運動場の中央あたりで安全を確保する。
    - ・その他の場所では頭部を守りながら安全な場所で安全確保に努める。
  - 体育館に避難する  
校内放送（または拡声器）で児童に体育館に移動への指示を出す。
    - ・「地震想定避難。地震想定避難。山陽小野田市に大きな地震が発生しましたが、地震が収まりましたので、児童のみなさんは、走らず、黙って、体育館へ避難しなさい。（もう一度繰り返す）避難開始」
  - 学級担任による児童確認  
学級担任はクラスの人数を確認し報告をする。  
【避難訓練終了】
- 防災学習  
体育館において全学年一斉で防災学習を行った。
  - KYT  
「落ちてこない。倒れてこない。移動してこない。」のキーワードをもとに、自宅・理科室等の室内と住宅地・ビル街・浜辺の野外にいた場合を想定しKYTを行った。
  - 平成11年台風18号及び東日本大震災による被害について  
東日本大震災での津波の被害、平成11年に起こった台風18号による高潮被害を学び、海辺の近くにいた時に大きな地震が来た場合の避難について理解させた。
- 学校便りで  
この地震対応の避難訓練と防災学習の内容について記載し、最後に「津波てんでんこ」について載せた。家庭でも様々な災害、様々なケース（児童が一人である時など）を想定し、避難場所等についてしっかり話し合っ欲しいことを伝えた。



運動場の様子



教室の様子



防災学習

取組名	地震津波に対応した避難訓練
取組の特徴	萩市地域防災計画が見直され、地震・津波を想定した萩市の総合防災訓練に、隣接する小・中学校で参加し、安全な避難について訓練を実施した。
学校名	萩市立越ヶ浜小学校

### 取組の概要

1 実施日時 平成24年12月1日(土) 8:40 ~ 12:00  
(萩市総合防災訓練 9:00 ~ 12:00 に参加)

2 ねらい

- ①地震を想定した児童の安全確保に関する訓練を実施し、地震の際の避難方法、場所を理解させる。
- ②児童・生徒が、登下校中地震に遭遇した際の、自己防衛のための具体的方法を理解させる。
- ③非常時における職員の避難誘導體制の確認を行う。

3 地震・津波の想定

- ・午前9時に萩沖日本海を震源とする震度6強の地震が発生。
- ・地震発生から、60分後に3mの津波が沿岸部に到達する。
- ・強い揺れにより、古い木造家屋が倒壊、流出するとともに、住宅密集地では火災が発生する。

4 当日の流れ

8:40 ~ 9:00 事前指導

地震発生後の具体的対応について指導(各担任)

- ・日常の心構えや避難訓練の必要性
- ・防災教育テキスト「自然災害から自分の命を守るために」を使い、家庭での確認事項を話題にした2回目の指導

9:00 地震発生

- ・放送1「地震の音」を放送で流し、机の下への一次避難をする。  
情報の収集、教室での待機。

9:04 避難行動をとる

- ・放送2「揺れがおさまったこと。津波に備えて、二次避難場所(白坂地区)へ移動すること」を連絡する。

9:08

- ・運動場朝礼台付近に学年2列で集合。  
人数確認後、白坂地区広場に避難する。小学生、中学生の順に避難。

9:30 二次避難完了

- ・避難場所・白坂地区広場に到着後、学年で人員確認。
- ・その後、地区での避難対応を考えて地区毎に整列。地区の中学生と並んで顔あわせをし、中学生をリーダーにして中学校まで戻ってくる。教員は、地区担当の班で、児童・生徒の誘導・支援にあたる。

9:45 運動場への移動完了

- ・防災アドバイザー・幸坂さんより 講評 避難訓練終了

10:00 ~ 総合防災訓練会場で見学・・・マリーナ萩駐車場

- ・救援物資調達訓練 ・倒壊木造家屋救出訓練 ・水難救助訓練
- ・火災防御訓練 その他、実働訓練 等

5 実施後の反省

- ・今回は、市の総合訓練の関係で、パトカーが児童生徒を先導したので、素早い避難とはならなかったが、約800m離れた二次避難場所まで、児童は真剣に移動することができた。
- ・教師は、危険箇所など要所要所で、もっと指示を出すことが実際の避難では必要である。ことば(情報)のリレーをして、安全に誘導することが大切であることの指導を受けた。
- ・白坂までの経路が川沿いを歩くので、場合によっては、一段高い所を平行してはしっている線路上を歩くこともあろう。そのためにも、列車の通過時刻も調べておく必要があることも指導を受けた。





取組名	緊急時児童引き渡し訓練
取組の特徴	緊急時における児童の安全な下校と保護者への円滑な引き渡しと、学校に残留する児童への保護措置を適切に行うために本訓練を実施する。
学校名	長門市立油谷小学校

### 取組の概要

#### <緊急時児童引き渡し訓練>

1 日時 平成24年11月10日(土) 11:45~12:00

2 引き渡し方法

(1) 引き渡し場所 運動場(雨天の場合:体育館)

(2) 方法

#### <晴天時>

①保護者は運動場で学級毎に待つ。(トラックのラインに学級毎、来校順)

②運動場に出た児童は、座って待つ。

③本部の指示に従い、担任に「〇〇の父です」「〇〇の母です」等を告げてサインを行い、児童を引き取る。(所定の用紙使用)

④兄弟姉妹の児童がいる場合は、上の学年の児童から引き取る。(確実な引き渡しのため)

⑤児童クラブへ預ける児童は、一旦保護者が引き取って連れて行く。

⑥児童を引き取った保護者は児童を連れて帰宅する。

#### <雨天時>

①児童は担任の引率のもと、下足を持って体育館に入り、座って待つ。

②保護者は傘をビニールの傘袋に入れ、下足を持って体育館玄関から上がる。

③晴天時と同様の手順で児童を引き取る。

④児童を引き取った保護者は、渡り廊下から外に出て帰宅する。

#### <引き渡しができない場合>

①家庭の都合で当日迎えに来ることができない場合は連絡帳等で事前に担任に伝える。

②該当児童は、訓練終了後12:00に下校させる。

(スクールバスも12:00に出発。児童クラブは1年担任が引率する。)

※ 実際の場合は、保護者が学校に迎えに来るまで待機させ、確実に引き渡す。

3 準備物

バインダー(学級1枚)・筆記用具・引き渡し用紙(学級毎)

(実際の災害を想定して、机等は出さない。)

4 保護者への周知

(1) 事前に文書により引き渡し訓練の実施を通知する。

(2) 緊急メールにより訓練の実施を通知する。

5 成果と課題

(1) 初めての引き渡し訓練であったが、学校行事で保護者が来校する日に訓練を実施したことで多数の保護者の参加があった。引き渡し訓練についての理解を得るよい機会となった。

(2) 引き渡しをした児童を確実に把握するため、学級ごとに引き渡しを行った。今回は一斉の引き渡しであったため、短時間で終了することができた。反面、兄弟が多い家庭では待ち時間がやや長くなった。家庭ごとにまとめて引き渡す方法も考えたい。

(3) 実際に災害が発生した際には、迎えに来ることができない保護者もいると思われる。児童を安全に待機させる場所や保護措置についても十分に検討したい。



取組名	全校学活でのKYT（夏季休業前の取組）
取組の特徴	地域での集団行動の質を高めるために、異学年合同で危険予測の仕方を共有する場を設定する。
学校名	長門市立日置小学校

### 取組の概要

#### ○全校学活でのKYT（夏季休業前の事前指導）

- （ねらい）・児童の防災意識を高め、普段から様々な災害を想定し、それらに対して備えようとする心がけや態度を養う  
・自他の命を尊重し、大切にしようとする態度を養う

（日時）平成24年7月18日

（会場）日置小学校体育館

（資料）『危機予測学習（KYT）資料集』（平成23年11月山口県教育委員会）

#### （児童の反応）

夏休みに向けて、風水害、火災、水の事故等、起こりうる危険を予測し対応を話し合うことは、児童にとって必要感のある活動であった。そのため、映し出された映像をじっと見つめ、危険を予測し、自分の身を守るためにはどのように行動したらよいか、真剣に考える姿が見られた。

児童からは、「風が強い日には、ものが飛んでくることも考えられ、外に出ないようにしたほうがよい。」「遠くで激しい雨と雷が見える。もう少ししたら、自分のところに雲が来るかもしれない。」「急な増水も考えられる。川に近づかないほうがよい。」など、よく考えた発言が見られた。



#### （考察）

日置地区は、山や川に囲まれている地域であり、また、住宅が密集している場所もある。そのため、風水害や火災による被害などの危険が予測される。さらに、夏休み前ということで、海水浴などに出かけることも想定され、海での危険も予測されるため、自分の身を自分で守ることの大切さを事前に学習することとした。

今回、全校集会としたことで、高学年児童の気付きを低学年児童が聞くことができ、効果的であったと考える。また、本校児童は、放課後や休日には、異学年で遊ぶことも多く、危険予測の仕方を共有することは、地域での集団行動の質を高める上でも有効であった。

しかし、全校集会での学習は、児童一人ひとりの危険予測についての高まりを見取ったり、価値づけたりすることが難しい面もあった。各学級での事前事後指導の取組と関連付けて、全校学活を位置づける必要もあると考える。

